

茶道部「今、茶道部が熱い！」

歯学科4年 久保田 瑞 穂

新潟大学の江戸千家茶道部、それは、茶道を深く愛し、賑やかに活動し、大いにお茶会と飲み会を楽しむ部です。今回は、知られざる茶道部の実態をお伝えしたいと思います。

現在私たちは、歯学部8名、医学部13名、理学部1名の計22名で活動しています。歯学部ニュースのバックナンバーを見たところ、茶道部が寄稿した平成25年度号の部員数は10名だったようです。私が入部してから早3年、今ではなかなかの大所帯となりました。私たちは、毎週木曜日に約3時間、池原会館2階の和室で活動しています。

のんびりお抹茶を飲むだけだと思われがちな茶道部ですが、この3年間だけでも重大イベントが沢山ありました。最も大きな変化は、指導者の先生が変わったことです。部の創立者であり、長年にわたってご指導くださった澁谷后雪先生が昨年引退され、今年度から鈴木宗裕先生が引き継いでくださることになりました。なかなか後継の先生が見つからず、一時は廃部という言葉が頭をよぎる時期もありました。しかし、澁谷先生のご尽力と鈴木先生のご厚意により、廃部の危機を免れ、先日無事に春の開学記念茶会を終えることができました。

茶道部は、春と秋の学生茶会、医歯学祭でのお茶席という年3回の発表の場を軸に、東京のお茶会に参加したり、先生のお宅へお稽古に行ったりしながら、日々練習に励んでいます。お茶会ではただお抹茶を出すだけではなく、茶花を自分たちで入れたり、お菓子を選んで注文したりしています。また、茶道で使う道具決めや使用する部屋の下見など、お客様のことを第一に考え、入念な準備を行います。余談ですが、湯を入れたお釜はとても重く、女子は持ち上げられないほどです。茶道は、長時間の正座に耐えるという精神力に加

え、以外と体力も必要とされます。

また、昨年度は、部員達で笹団子作り体験に行きました。このように、茶道と離れた場面でも小さなイベントを開催しています。昔は、器作りや合宿まで行っていたそうなので、驚きです。

茶道部の1番の魅力は、自由な環境の中で極めたいことに没頭できる点だと思います。難しいお点前を勉強したり、着物の着付けを学んだり、手作りの和菓子を作って差し入れしたり等、興味のあることに集中できる環境が整っています。

茶道には、「湯気は最高の御馳走」という言葉があります。これは、釜から上り立つ湯気を見る



だけで、おいしいお抹茶が出されることが想像できるために言われ始めた言葉だそうです。(お抹茶は熱い湯で点てたものが最もおいしいと言われています)。現在の茶道部は、湯の温度も部員のやる気もまさに「熱い」、そんな活気あふれる部

となっています。50年以上続く部の伝統を受け継ぎながら、これからも部活動に精進してまいりたいと思います。この文章を通して茶道部に興味を持っていただけたならば幸いです。



軟式野球部「部活動手記」

歯学科4年 永島和裕

この度は、歯学部ニュースで私たち野球部の紹介を取り上げて頂けるということで、誠に光栄であります。ありがとうございます。以後、稚拙な文章となってしまうかもしれませんが最後まで読んでいただけると幸いです。

私たち野球部は、プレーヤー13人、マネージャー7人計20人の少数精鋭（たとえば聞こえはいいですね。）で活動しています。しかも約半数は初心者であり、部員の個性の強さを考えると、さながらルーキーズといったところでしょうか、はたまた、弱くても勝てますと言ったところでしょうか。

さて、他の部活動の方や先生方から、しばし言われるのですが、「あれ、野球って9人でやるスポーツだよな？部員少なくない？」「マネージャーさんで野球チーム作れそうだね」まったくもってその通りでありまして、返す言葉もございません。ですが、人数が少ないことで部員同士、先輩後輩の垣根無く会話ができ部活は和気藹々としています。

昨今、若者の野球離れが深刻化しております。それは、ここ新潟大学歯学部にも例外なく訪れています。先述した通り私たち野球部のプレーヤーのうち約半数は未経験者です。こんな状況を何とか打開したい。では、野球の楽しさについて少しばかり書いていきたいと思います。

野球はタウンボールを原点とし、日本では中馬庚がそれを命名したともいわれ…とここまでwiki風に書いてみましたが文章で野球の楽しさを知っていただくのは正直難しいです。ですので、まずは皆さん野球を見てください。そして次に野球を試してみてください。「野球って難しいよね？」そんなことありません。日本人は完璧を求めすぎです。海外の人に日本語をしゃべれるか尋ねると

中八九Yesといい。「こんにちは。寿司。」など言います。日本人は対して英語を話せないと言います。野球は、完璧さを求めないスポーツです。10回中3回でもヒットを打てば大打者と言われる世界なのです。完璧を求めすぎる日本人にはこれほど心の余裕をもって、楽しくできるスポーツは無いと個人的には思います。その中に繊細な戦略があり、弱いと言われるチームでも強いチームに勝つこともある。また、誰かがホームランを打てば感動する。ピンチになれば応援する。人と人とのつながりをプレーしている人も、周りで見ている人も感じられるのが野球です。見ているすべての人が熱く、感動できるスポーツが野球です。

さて、言葉足らず、野球の楽しさが伝わったか分かりませんが、最後。私たちがこうして楽しく野球ができているのは、顧問である前田学部長をはじめとするOB・OGの先生方のご支援、さらに常に黄色い声援で精神的なことを含めて、多くの面においてプレーヤーを支えてくれるマネージャーさん方、また、部員同士の支え合い、野球をさせてくれる両親の支え。様々な方に支えられていることを忘れず、これからも楽しく野球をしていきたいです。

